

子どもが生き生きと学ぶ放送学習 中間報告会

4年 特別活動

(1)学級や学校の生活づくり

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

番組名 「いじめをノックアウト」

放送回 「ホンネで話し、書いてみよう！」

「いじめを許さない心」を育てるために、実際にあった話をもとにいじめについて考えることができます。

実践者 横浜市立杉田小学校 教諭 金子 実

番組の使い方

活用のねらい

悪口が飛び交う学級の雰囲気についてホンネで話し合ってみると、意外な胸の内が見えてくる。

番組を視聴することで、自分たちが普段何気なく使っている言葉は本当はどのように聞こえているのだろうか、そして考えられているのか。日常生活を見直すことが、自分たちの学級の「ノックアウトパンチ」になると考える。

具体的な手だて

- ・MCの発言が思考を深める手だてとなるので、課題を自分事として考えをまとめるヒントとした。
- ・一人一人の意見を板書で整理することにより課題を焦点化し、新たな発見とその価値を共有できるようにした。
- ・ワークシートを書くことで自分の考えを明らかにして整理した。

授業の概要(1時間)

本時の目標

自分が何気なく言葉が、人を傷つけることがあることを知り、これからの自分の言動に活かす。

番組視聴(10分)

- ・本音で話すことのよさを番組から感じとり、自分たちが使っている言葉を意識しながら視聴する。

自分の考えをワークシートに書く(5分)

- ・どんな言葉や行動が人の心を傷つけるかを考えて書く。

どんな言葉や行動が人の心を傷つけるかを発表する。(10分)

- ・言葉と行動に分けて板書で整理する。

人の心を傷つける言葉や言動が、よくない理由や使ってしまう理由を考えて発表する。(10分)

自分が考えた「いじめをなくすための行動」をワークシートに書いて発表する。(10分)

生き生きと学ぶ子どもの姿

思考に自分の経験が生きる

似たような体験をした子どもにとっては、自分や友達の経験を通して自らの課題として捉えることができていた。

これからの自分たちのために課題を追究する

少し上の学年での日常的問題から起きたことを中心に展開されているため、自分たちのこれからの課題として捉える学習をまとめていった。

人の心を傷つけてしまう理由をまとめる

- ⇨知らないうちに悪い言葉が入っている。
 - ⇨言っている人は楽しいが、言われている人は悲しい。
 - ⇨言うこと、やることを面白がっている。
- ことに気が付いた。

指導を終えて

自分の言動を振り返る子が多くなり、日常の中でお互いの言葉遣いを気を付けるようになった。また、自分の何気ない行動がもしかしたら「いじめ」ていることになっているかもしれないと考える子が増えてきたことに、学習の成果を感じる事ができた。

